

**国際共同研究事業**  
**スイスとの国際共同研究プログラム**  
**平成 30 年度実施報告書**

平成 31 年 4 月 18 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

共同研究代表者

所属機関・部局 国際基督教大学・教養学部職・氏名 (ふりがな) 准教授・李 勝勲

1. 事業名 国際共同研究事業スイスとの国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 音声音韻及びローマ字と元文字の不正書法: ヒマラヤの原住民話者への助力  
(英文) Phonetics Phonology and New Orthographies: Helping Native Language  
Communities in the Himalayas (PhoPhoNo)
3. 共同研究実施期間 (全採用期間)  
 平成 29 年 2 月 1 日 ~ 令和 2 年 1 月 31 日 (3 年 0 ヶ月)
4. 研究参加者 (代表者を含む)  
 (1) 日本側参加者 6 名 (2) スイス側参加者 3 名
5. 主要な物品購入状況 (単価 (一品又は一組) 若しくは一式の価格が 50 万円以上のものを購入した場合は記載)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名	備考
超音波機器	Articulate Instruments Limited 社製 Micro ultrasound system for speech research (net 0.6kg) (106x105x21mm)	1	896,199	896,199	国際基督教大学	

備考: 本事業の委託費と他の経費とを合算使用の際は、合算使用した旨を備考欄に記載した上で、金額は本事業の委託費によるもののみ計上してください。

## 8. 研究実施状況

※ 申請書の内容及び当該年度実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

本年度は Nasometer および超音波を用いた音響的計測を行い、これまで提示してきた仮説の更なる検証を行うことを目標とした。さらには国際学会や専門誌を通じた成果報告を行い、プロジェクトメンバー以外の多くの専門家による助言を仰いだ。

4 月にはスイスチームからは van Driem 氏を ICU に迎えて研究会を行い、これまでの成果報告や今年度研究計画及び進捗状況の確認を行った。研究会には研究代表者に加え、桃生氏が参加した。

また 5 月 11-13 日には会津大学にてワークショップを行い、6 月 18-20 日にベルリンで行われた TAL 学会発表（担当：研究代表者）及び 6 月 23 日行われた日本語学会に向けた準備、8 月にネパールのカトマンズで約 6 日間行ったタマン語フィールドワーク（担当：研究代表者）の事前準備を行った。その上で研究顧問である Perkins 氏（会津大学）、Villegas 氏（会津大学）、川原氏（慶應義塾大学）、西田氏（東北大学）の助言を仰ぎ、フィールドワークで用いるマテリアルの考察・推敲を担当してもらった。

8 月には都内にてタマン語話者と面談を行い、データ収集及び被験者収集にあたっての助言を仰いだ（担当：研究代表者、Guillemot 氏）。

9 月はこれまでの成果をまとめ、那覇で行われた日本音声学会、会津若松で行われた International Symposium on Applied Phonetics にて研究発表を行った（担当：研究代表者）。また、京都で行われた International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics では近年のチベット・ビルマ語族研究の動向を把握し、加えて今後の分析手法に関する有益情報を多数集めた。また同月には ICU にて全体ワークショップを行い、Perkins 氏、Villegas 氏、川原氏、西田氏の助言を仰いだ。さらにスイスチームからは van Driem 氏が来日し、これまでの成果報告、11 月に行うデンジョン語のデータ収集の事前準備を行った。さらに 10 月には ICU にて西田氏と研究打ち合わせを行い、データ収集に使用するマテリアルの最終確認を行った。

11 月にデンジョン語のデータ収集をインドのシッキムで約 12 日間行った（担当：研究代表者、Perkins 氏、西田氏）。データ収集における Orthography Design に関し、コンサルタントとして Daehan Won 氏の協力を仰いだ。また京都にて行われた日本語学会にて発表を行った（担当：Guillemot 氏）。

1 月にはイタリアで行われた Old World Conference on Phonology に参加し、今後の分析方法について、多くの専門家と意見交換を行った（担当：研究代表者）。

2 月 7-9 日には全体研究会を東北大学で行い、Perkins 氏、Villegas 氏、川原氏、西田氏の助言を仰ぎ、その成果を踏襲してホノルルで行われた ICLDC Conference 及び 3 月に浦安で行われた音韻論フェスタにて発表を行った（担当：研究代表者、Guillemot 氏）。

3 月には再びインドのシッキムにてデンジョン語のデータを収集した（担当：研究代表者、Perkins 氏）

上記以外にも、主に都内で行われた学会やシンポジウムにて、研究発表や意見交換を適宜行った。

これらの成果を受け、雑誌論文①・②を発表したが、さらに 2019 年 4 月末には Journal of Phonetic Society of Japan Special における Issue on Tibeto-Burman languages の巻にて論文を 2 本発表する予定である。また音声記号に関する記述について、2 本の論文にまとめたが、一本は修正中、一本は査読審査中である。

9. 研究発表（平成30年度の研究成果）

【雑誌論文】 計(2)件 うち査読付論文 計(2)件

通番	共著の有無*	著者名	論文標題			
		Lee, S. J., Hwang, H.K., Monou, T., Kawahara, S.	The phonetic realization of tonal contrast in Dränjongke.			
①	有	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
		Proc. TAL2018, Sixth International Symposium on Tonal Aspects of Languages	有		2018	217-221
②	有	著者名	論文標題			
		Lee, S. J. and S. Kawahara	The phonetic structure of Dzongkha: a preliminary study			
		雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
		Journal of the Phonetic Society of Japan	有	22	2018	13-20

【学会発表】 計(14)件 うち招待講演 計(4)件

通番	発表者名	発表標題		
①	Kawahara, S., S. J. Lee and T. Monou	Tonal aspects of some Tibeto-Burmese languages		
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	プロジェクト研究発表会	June 9, 2018	NINJAL	
②	発表者名	発表標題		
	桃生朋子, George van Driem, Selin Grollmann, Pascal Gerber, Seunghun J. Lee, Hyun Kyung Hwang, Jeremy Perkins, Julián Villegas, 川原繁人, 西田文信	音声音韻及びロマ字と元文字の新正書法: ヒマラヤの原住民話者への助力		
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	海外学術調査フェスタ	June 16, 2018	The Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo	
③	発表者名	発表標題		
	Lee, S. J., H.K. Hwang, T. Monou and S. Kawahara	The phonetic realization of tonal contrast in Dränjongke		
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	The Sixth International Symposium on Tonal Aspects of Languages (TAL 6)	June 18-20, 2018.	Beuth University Berlin.	
④	発表者名	発表標題		
	Lee, S. J., H. K. Hwang, T. Monou and S. Kawahara	Consonants as tonal targets in Dzongkha.		
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	2018 Spring Meeting Phonological Society of Japan.	June 22, 2018.	Daito Bunka University.	
⑤	発表者名	発表標題		
	Perkins, J., S. J. Lee, S. Kawahara and T. Monou	Consonants and tones: A view from two Tibeto-Burman languages.		
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	The 156th Linguistics Society of Japan.	June 23, 2018.	Tokyo University.	

⑥	発表者名	発表標題	
	Haruka Tada, Seunghun J. Lee, Tomoko Monou, Hyun Kyung Hwang, Céleste Guillemot, Jeremy Perkins, Julián Villegas, Shigeto Kawahara, Fuminobu Nishida, George van Driem, Selin Grollmann, Pascal Gerber	PhoPhoNO project: Converging phonetics and phonology in suggesting orthographies for understudied Tibeto-Burman languages	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	国際シンポジウムとポスターセッション	August 5, 2018.	NINJAL
⑦	発表者名	発表標題	
	Hwang, H. K., S. J. Lee, S. Grollmann and P. Gerber	Laryngeal contrast and tone in Tamang: A preliminary study.	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	The Thirty-Second General Meeting of the Phonetic Society of Japan.	Sep. 15, 2018.	Okinawa International University.
⑧	発表者名	発表標題	
	Guillemot, C. and S. J. Lee	An interaction between voicing and tone in Dränjongke fricatives	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	The 157th Annual Meeting of the Linguistics Society of Japan	November 17, 2018.	Kyoto University
⑨	発表者名	発表標題	
	Villegas, Julian and Seunghun J. Lee	Creating maps for linguistic field-work using R. Technology Showcase Session	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	The 6th International Conference on Language Documentation and Conservation (ICLDC6)	February 28-March 3, 2019	University of Hawai'i
⑩	発表者名	発表標題	
	Guillemot, Céleste, Shigeto Kawahara, Tomoko Monou, Jeremy Perkins, Seunghun J. Lee	A Quantitative Analysis of a Laryngeal Contrast in Drenjongke (Bhutia) fricatives.	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	Phonology Festa 14.	March 4-5, 2019.	Meikai University (Urayasu Campus).
⑪	発表者名	発表標題	
	Lee, Seunghun J.	Phonetics and Phonology of segment-tone interaction in two Tibeto-Burman languages: Drenjongke and Dzongkha	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	Linguistics Colloquium	March 8, 2019.	University of Delhi.
⑫	発表者名	発表標題	
	Lee, Seunghun J.	Multi Track Audio Editing Workshop.	
	学会等名	発表年月日	発表場所
	Denjongke Workshop	March 14, 2019.	Makhim (Bhutia Kayrab Yargay Tsogpo Headquarter), Sikkim.

⑬	発表者名		発表標題	
	Lee, Seunghun J.		What Drenjongke (Bhutia) tells us about human language?	
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	Colloquium	March 14, 2019	Makhim (Bhutia Kayrab Yargay Tsogpo Headquarters), Sikkim	
⑭	発表者名		発表標題	
	Lee, Seunghun J.		Segment-tone interaction in two Tibeto-Burman languages : Drenjongke and Dzongkha.	
	学会等名	発表年月日	発表場所	
	Colloquium	March 27, 2019.	University of Macau.	

【図書】計( 0 )件

通番	共著の有無*	著者名		出版社	
①		書名		発行年	総ページ数

- \* 相手国研究代表者との共著がある場合は○、相手国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。
- \* 足りない場合は適宜行を追加して下さい。

- この報告書は、最終年度を除く毎年度提出してください。
- 本会の事業報告等に記載するための適当な写真がありましたら、説明を付して添付してください。
- この報告書の1.～5.及び8.～9.は、本共同研究の成果として本会ホームページに掲載するほか、報告書全てを閲覧用に公開します。また、この報告書を本会の事業報告として刊行する場合、内容に影響しない範囲で修正を行うことがあります。